



☆ 春が来た！

今年は、日替わりで、暑くなったり寒くなったり、忙しい年ですが、それでも、確実に暖かい日が増えて来ていますね。気候についていだけでも大変ですが、本の中だけでも、ゆっくり‘春’を満喫してみませんか。今回は、春爛漫な本を集めてみました。お楽しみください。



春、爛漫



絵本・ぐりとぐらとくるりくら

中川李枝子文、山脇百合子絵、福音館書店
(こどものとも傑作集)

気持ちのいい、ある春の朝、野ネズミのぐりとぐらは、朝ご飯を原っぱで食べることにします。サラダとサンドイッチをどっさり持って、原っぱに行った二人は、手長ウサギのくるりくらに会いますが…

…。
人気シリーズ、“ぐりとぐら”も、今年で50歳。この機会に、素朴で明るい絵と、リズムカルな文章を、ゆっくり味わってみてください。

絵本・たろうのひっこし

村山桂子作、堀内誠一絵、福音館書店
(こどものとも傑作集)

ある日、たろうが、自分の部屋が欲しいという、お母さんは、古いじゅうたんを持ってきて、「このじゅうたんを広げたところが、たろうのお部屋よ。」と言います。そこで、たろうが階段の下にじゅうたんを広げると……。

1枚のじゅうたんから発想を広げていった、ごっこ遊びの絵本。最後は、桜の下でのパーティになりますよ。

絵本・アンジェリーナのはるまつり

キャサリン・ホラバード文、ヘレン・クレイグ絵、岡田好恵訳、講談社(「アンジェリーナ」シリーズ)

待ちに待った春祭りがやってきました。アンジェリーナは友達と行きたかったのに、小さなヘンリーがついてきてしまいます。それでも、自分の行きたいところにばかり行っているうちに、ヘンリーがいなくなってしまう……。

年下の子を思いやる気持ちを教えてくれる絵本。弟や妹ができたばかりの子に読んであげたくなる一冊です。

絵本・はなのすきなうし

マンロー・リーフお話、ロバート・ローソン絵、光吉夏弥訳、岩波書店(岩波の子どもの本)

ウシのフェルジナンドは、花のおいしさを嗅ぐのが大好き。ところが、ある日5人の牛飼いの男たちがやってきて、フェルジナンドをマドリードの闘牛場へ連れて行ってしまいますが……。

白黒のみの絵は、地味ですがエキゾチックで、お話に豊かな表情を与えています。お話も静かなユーモアをたたえています。



科学絵本・野の草花

古谷一穂文、高森登志夫絵、福音館書店
(福音館のかかくのほん)

春から冬へと季節が移っていきます。それに合わせて、私たちの周りには、たくさんの草花が咲いていきます。また、日向が好きな花、湿ったところが好きな植物、環境によっても違った草花が咲きます。この本では、美しく、精緻な絵と、簡潔な文章で、そのような植物の特性を、分かりやすく解説してくれます。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は 5月 18日 (土)、6月 15日 (土)
時間 午後 3 : 00 ~ 3 : 30
場所 西部図書館 お話し会のへや





☆ 梅雨入り

今年は、例年よりも梅雨入りが早かったようですが、その割には、暑い日が続き、ここ何日かでやっと梅雨らしくなってきましたね。雨の日が続くと、気分はうとうとしくなりますが、それでも、雨が降らないと、実りの秋がやってこないし……。

そこで、今回は、楽しい雨の本を集めてみました。絵本の中だけでも、‘雨’を楽しんでみてはいかがでしょうか。



雨のち晴れ



絵本・ガンピーさんのドライブ

ジョン・バーニンガム作、光吉夏弥訳、ほるぷ出版

ある日、ガンピーさんはドライブに出かけることに。途中で子どもたちに、ウサギ、ネコ、イヌ、……と一緒に乗り込んできて……。

野原を突っ切って、山道を登って、楽しそうに走っていくガンピーさんの車。やさしいタッチの絵とともに、ドライブに出かけてみませんか。

絵本・せんたくかあちゃん

さとう わきこ作・絵、福音館書店(こどものとも傑作集)

かあちゃんは、洗濯が大の、大の、大好き。今日も腕まくりをすると、ネコもイヌも、子どもたちまで、家中のものを洗って、庭中に縄を張って干します。そこへ、雷さまが落ちて来て……。

奇抜なアイデアと、細かく描きこまれた絵が楽しい絵本。雷さまとかあちゃんの掛け合いも楽しいですよ。

絵本・あめがふるとき

ちょうちょうはどこへ

メイ・ゲアリック文、レナード・ワイスガード絵、岡部うた子訳、金の星社

雨が降るとき、チョウチョウはどこへ行くのでしょうか。羽が濡れたら飛べません。モグラは穴へ、ミツバチは巣へ、ネコは家へ入ります。でも、チョウチョウは？

静かに降る雨の中の動物の生態を、単色の柔らかいタッチの絵と、詩情豊かな文章で描いた絵本です。

絵本・あかいかさ

ロバート・フライト作、清水真砂子訳、ほるぷ出版

女の子が赤い傘を持って出かけると、“ほら、ほら！ ふってきた。”

女の子が開いた傘に、イヌ、ネコ、ニワトリ、……と次々に動物たちがやってきて、みんなで楽しい雨宿り。やがて雨が止んできて……。

暖かく、やわらかい線画に、傘の赤だけが印象的な絵本。幼い子にもどうぞ。



絵本・おじさんのかさ

佐野洋子作・絵、講談社

おじさんは、立派な、お気に入りの傘を持っていました。どこへ行くにも持っていき、雨が降ってもさしません。けれども、ある日、小さな男の子に傘をさす喜びをおしえられて……。

大切な宝物だから大切にしたい。でも、使うことで、その喜びがもっと大きくなることもありますよね。



☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

今回は
時間
場所

7月20日(土)、8月17日(土)、9月21日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや





みみずく通信

No.62
2013.7.20

発行：すばなしの会みみずく

HP：www.h4.dion.ne.jp/~mimizuku/

☆ 暑い夏

今年は、梅雨が短くて、あっという間にあけてしまい、次に来たのが、これでもかという暑さです。毎日、テレビでは、熱中症のニュースが報道され、聞いているだけで、こちらまで熱中症になりそうですね。

今回は、そんな暑さも吹っ飛ばすような、明るく楽しい絵本を集めてみました。夏休みの宿題に役立ちそうな本もありますので、お子様と一緒に楽しみください。



夏休み！！



絵本・ **がたん ごとん がたん ごとん ざぶん ざぶん**

安西水丸作. 福音館書店. (あかちゃんの絵本)

“がたん ごとん”とやってきた汽車に、“のせてくださいーい”と言って乗り込んだのは、アイスクリームとおさじ、ビーチボールに麦わら帽子とシャベルに、それから……。

赤ちゃん絵本の定番『がたん ごとん がたん ごとん』の続編。今度は、みんなで、楽しい海へ出発ですよ。

絵本・ **14ひきのとんぼいけ**

いわむらかずお作. 童心社

ある暑い夏の日、“お昼食べたら、とんぼ池で遊ぼう”と、いっくんが言ったので、10匹のネズミの兄弟たちはとんぼ池へ行くことに。木の枝でボートを作って、池へ漕ぎ出した兄弟たちは、いろんなトンボたちに出会います。

淡い色で、細部まで描かれた絵は繊細で、涼しげな森の風まで運んできてくれるようですよ。シリーズでどうぞ。

絵本・ **どろんこ こぶた**

アーノルド・ローベル作. 岸田衿子訳. 文化出版局

お百姓の家のブタ小屋に住んでいたこぶたは、柔らかい泥んこの中に沈んでいるのが大好き。ところが、ある日、お百姓のおばさんに、泥を掃除機で吸われてしまい、怒ったこぶたは家出をしますが……。

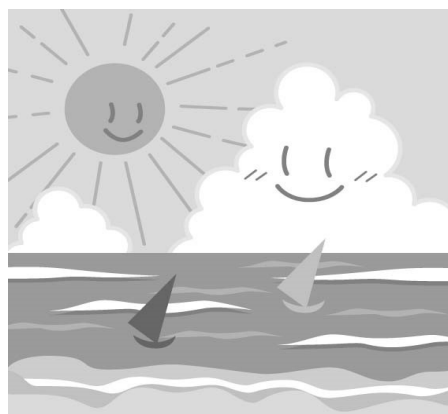
地味な色合いですが、漫画調の絵は表情豊かで、笑いを誘われますよ。

絵本・ **くんちゃんのはたけしごと**

ドロシー・マリノ作. 間崎ルリ子訳. ペンギン社

ある日、クマのくんちゃんは、お父さんの畑仕事の手伝いをすることにします。お父さんの真似をしているつもりなのに、失敗ばかりのくんちゃんは、畑の隅に座って、お父さんのすることをじっと見ていて、あることに気が付き……。

くんちゃんの子どものらしい発想と行動が、暖かいユーモアを感じさせる絵本です。



絵本・ **だいちゃんとうみ**

木田大八作・絵. 福音館書店(こどものとも傑作集)

だいちゃんは、夏休みに、いとこのこうちゃんの家へ遊びに来ました。船で沖へ出て釣りをしたり、海で泳いだり、……。

だいちゃんの家辺の家での一日をつづった絵本。昔懐かしい風景や、色彩の美しい、心温まる絵を、ほのぼのとした雰囲気とともに、お楽しみください。




次回は **2013年 8月17日(土), 9月21日(土)**

10月19日(土)

時間 **午後3:00 ~ 3:30**
場所 **西部図書館 お話し会のへや**



 まだまだ、あります！

絵本・いたずらこねこ

バーナティン・クック文、レミイ・シャーリップ絵、
間崎ルリ子訳、福音館書店

小さな池に小さなカメが一匹、隣の家にはいたずらな子ネコが一匹。ある日、カメのいる庭へ入ってきた子ネコは、カメが気になって仕方ありません。好奇心いっぱい、前足でたたくと、カメの首が消え、足が消え……。

白地を生かした鉛筆画に、池の緑が印象的な絵本。子ネコの表情も愛らしいですよ。

絵本・ぞうのエルマー

テビッド・マッキー文・絵、きたむらさとし訳、
BL出版(ぞうのエルマー 1)

エルマーはパッチワークのゾウです。黄色にオレンジ、赤にピンク……とカラフルですが、ある日、普通のゾウと同じゾウ色になってみたいと思立ち……。

‘自分らしいこと’の大切さを教えてくれる絵本。エルマーのパッチワーク柄も楽しげな、人気シリーズの最初のお話です。

絵本・ひとまねこざる

H. A. レイ文・絵、光吉夏弥訳、岩波書店

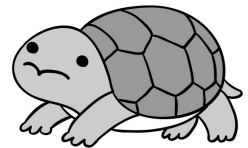
動物園に住むジョージは、知りたがり屋の子ザル。動物園の外のことが知りたくてたまらないジョージは、係のおじさんの目を盗んで、外に逃げたして……。

好奇心旺盛なジョージが巻き起こす騒動は奇想天外で、笑いを誘います。イタズラしている時のジョージの顔は見ものですよ。シリーズでどうぞ。

科学絵本・くも

新宮晋作、文化出版局

夏の間、夕方になると円網を張り、朝になるとたたむ、夜行性のクモ・オニグモの習性を、空の雲や星を背景に描いた絵本。トレーシングペーパーを用いて、クモの円網の出来上がる様子を描き、空の雲の動き、星空、夜露などで、時間の経過を表すなど、画期的な絵本です。



科学絵本・せいめいのれきし

バージニア・リー・バートン文・絵、石井桃子訳、
岩波書店

‘地球上に生命が生まれた時から今までのお話’を、5幕36場の舞台劇の形式で描いた絵本。生命の歴史を、大胆なデザイン、丹念で美しい絵で、小さい子どもたちにも分かりやすいように構成しています。連綿と続いてきた生命の輪は、読者自身へとつながり、“この後は、あなた方のお話です。”と、結ばれます。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は **2013年 8月17日(土)、9月21日(土)**
10月19日(土)
時 間 **午後3:00 ~ 3:30**
場 所 **西部図書館 お話し会のへや**





☆ 秋ですね

やっと、秋らしくなってきました。木々は彩りを鮮やかにし、風も冷たくなってきました。そこで、今回は、楽しい秋の絵本を集めてみました。皆さんも、絵本の中のように、秋晴れの日には、外へ出て、秋を見つけてみてはいかがでしょうか。



小さな秋



絵本・おやすみなさい おつきさま

マーガレット・ワイス・フラウン作、クレメント・ハート絵、
瀬田貞二訳、評論社

ベッドに入った子ウサギは、部屋にあるいろいろな物に、一つ一つ、「おやすみなさい」と、挨拶をしていきます。そして、いつしか……。

カラーとモノクロを交互に織り交ぜた絵は写実的で、簡潔で、静かに語られる文章とともに、幼い子を眠りの世界へと誘ってくれます。

絵本・サリーのこけももつき

ロバート・マックロスキー文・絵、石井桃子訳、
岩波書店(大型絵本)

ある日、サリーは、お母さんと山へコケモモ摘みに出かけます。お母さんはせっせとコケモモを集めますが、サリーは摘んでは口の中へ。一方、山の反対側からは、クマの親子がコケモモを食べにやって来ていて……。

大画面に紺一色で描かれた絵は、人や人物の動きもユーモラスで、楽しい絵本です。

絵本・こぎつねコンとこだめきポン

松野正文文、二俣英五郎画、童心社

つばき山に住む子ギツネのコンと、すぎの木山に住む子ダヌキのポンは、ある日、谷川を挟んで歌いあうち友達になります。嵐の後、谷川に倒れた木を渡って出会った二人は……。

柔らかなタッチで、暖かみのある絵は、お話にとっても合っていて、文章量は多めですが、最後まで子どもを引っ張っていってくれます。

絵本・もりのてぶくろ

八百板洋子文、ナターリヤ・チャルーシナ絵、
福音館書店(幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)

静かな森の中に、手袋の形をした黄色の葉っぱが1枚。そこへ、ネズミがやって来て、そっと手を当てますが、葉っぱの方がずっと大きくて……。

静かな森を舞台に、緻密で、色鮮やかな絵と、明快な文章でつづられた、心温まる絵本。

葉っぱにピッタリなのは、誰の手でしょうね。



絵本・木の実とともだち

下田智美文・絵、松岡達英構成、偕成社

ある秋の日、森に誘われて、みんなで木の実を採りに。森の中にはいろんな実がなっています。食べられるものもあるけど、毒のある実もあるから気を付けて。

秋は、森だけでなく、野原や公園、川原などにもたくさんの木の実があります。その実の料理法や遊び方を紹介した絵本。親子で探しに行ってみてはいかがでしょうか。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

今回は
時間
場所

11月 16日(土)、12月 21日(土)
午後 3:00 ~ 3:30
西部図書館 お話しの会





みみずく通信

No.64

2013.12.21

発行：すばなしの会みみずく

HP : www.h4.dion.ne.jp/~mimizuku/

☆ MERRY CHRISTMAS & A HAPPY NEW YEAR

今年も、ドキドキ、ワクワクと楽しい季節がやってきました。町はイルミネーションで飾られ、嫌でも季節の移ろいを感じさせられます。そこで、今回は、そんなドキドキ、ワクワクを詰め込んだ本をご紹介しますと思います。クリスマスの本だけではなくて、来年の干支、馬の絵本やちょっとした体操も紹介しますので、親子で楽しんでみてくださいね。



メリー・クリスマス



絵本・クリスマスのでんし

エルゼ・ヴェンツ・ヴィエトール作・絵、
さいとうひさこ訳、徳間書店

もうすぐクリスマスです。10人の天使が空から舞い降りてきて、困っている人たちを助けます。おなかをすかせた動物たちに食べ物をあげたり、おばあさんの代わりにツリーを用意したり……。

ページの上に飛び出した天使の顔も愛らしい絵本。クリスマス・イブには、天使たちの歌声が聞こえてくるようですよ。

絵本・サンタさんのトナカイ

ジャン・フレット作・絵、西郷容子訳、徳間書店

エルフの女の子、ティーカは、初めてサンタさんのトナカイの世話を任せられます。クリスマス・イブの夜、ちゃんと空を飛べるように、トナカイをしつけなければならないのですが……。

緻密で、色鮮やかな絵の美しい絵本。見開き両側の、サンタさんのおもちゃ工房も楽しめますよ。

絵本・あくたれラルフのクリスマス

ジャック・ガントス作、ニコール・ルーベル絵、
小宮結訳、PHP研究所

悪たれネコのラルフは、セイラのネコです。いつもセイラにいたずらばかりしていますが、ある朝、セイラが、パーシーというかわいいね子を抱っこしているのを見て……。

型にはまらないイタズラが楽しい絵本。どんなに悪たれていても、他の子がかわいがられていれば、やきもちをやくものなんですよ。

絵本・Xmas アドベント・ブック

～ クリスマスまであと何日？ ～
本庄ひさ子作、世界文化社

12月25日の約4週間前の日曜日からクリスマス・イブまでをアドベント(待降節)といいます。この本は、その4週間を楽しく過ごすためのものです。由来に、お料理に、クラフトに……。クリスマスにまつわるいろいろなことが詰め込まれた、まるでおもちゃ箱のような本ですよ。



絵本・スノーマン

レイモンド・フリックス作、評論社

ある朝、目を覚ますと雪が降っていたので、男の子は、大急ぎで外へ出て行って、雪だるまを作ります。その夜、雪だるまが男の子を訪ねてきて、二人は一緒に遊びますが……。

コマ割りになった、淡い色彩の色鉛筆画は詩的で、夢のような世界を作り出しています。字のない絵本です。



今回は
時間
場所

2014年 1月18日(土)、2月15日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや





まだまだ、あります！ MERRY CHRISTMAS & A HAPPY NEW YEAR

絵本・くろうまブランキー

伊東三郎再話、堀内誠一画、福音館書店
(こどものとも絵本)

黒ウマ、ブランキーのご主人は、とても意地悪な人でした。ご主人は、ブランキーが年を取って、大きな荷物を運べなくなると、ブランキーを打倒してしまいます。その夜、道に倒れたブランキーのところへ、サンタクロースが降りて来て……。

優しい色彩の、暖かみのある絵本。心穏やかな気持ちにしてくれます。

絵本・スーホの白い馬 ~モンゴル民話~

大塚勇三再話、赤羽末吉画、福音館書店

モンゴルの草原に住む、羊飼いの少年スーホは、ある日、白い子ウマをみつけて育てます。やがて白馬は立派に育ち、二人は町で開かれる競馬の大会に出るのですが……。

横長の画面を生かした絵は、スケールが大きく、モンゴルの雄大な草原を美しく描き出しています。モンゴルの民族楽器、馬頭琴の由来を語った昔話絵本です。

絵本・十二支のお節料理

川端誠作、BL出版

お正月のお節料理を作るために、年神様は12の動物を選び、それぞれ順番に係を決めました。これが十二支です。一年の締めくくり、それぞれの動物たちが、お正月の準備をしていく様子を描いた絵本。大晦日の夜、年神様もやって来て、一夜明ければお正月。来年も良い年でありますように。

絵本・名馬キャリコ

バージニア・リー・バートン文・絵、瀬田貞二訳、岩波書店(岩波の子どもの本)

アメリカの西部、サボテン州に、キャリコというウマがいました。キャリコは、とても頭がよくて、足の速いウマでした。ある日、サボテン州の先の悪土地帯を、悪者スチンカーの一味がうろついていると、馱馬車が伝えてきますが……。

白黒で、コマ割りになった絵は、スピード感があって、まるで西部劇の映画を見ているように楽しいですよ。



絵本・ペンギんたいそう

齋藤栞作、福音館書店(こどものとも0.1.2.)

黄色い画面に、ペンギンの親子が2羽。‘ペンギんたいそう はじめるよ’で始まったのは、ペンギンたちの体操です。ペンギンたちのしぐさも愛らしい絵本。ちょっと難しいところもありますが、お正月休みの運動不足解消に、ペンギンたちと体操してみてはいかがでしょうか。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

2013年 1月18日(土)、2月15日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや



来年も皆様にとって、良い年でありますように。そして、来年もよろしく願いいたします。



☆ 春は名のみ

立春もだいぶ過ぎたというのに、今年は、大雪は降るし、寒いばかりですね。けれども、子どもは風の子。子どもたちは大はしゃぎで、雪遊びをしています。そこで、今回は、大人も少しその元気を分けてもらおうと、楽しい雪の本を集めてみました。定番の絵本も一緒に載せましたので、お楽しみ下さい。



雪、また雪



絵本・ ゆうかな アイリーン

ウィリアム・スタイク作、小川悦子訳、セーラー出版

アイリーンは、病気のお母さんの代わりに、吹雪の中、お屋敷へドレスを届けに出かけます。日も暮れ、雪と風に悪戦苦闘しながらやっとたどり着いてみると……。

柔らかなタッチで、表情豊かに描かれた絵本。アイリーンと一緒に冒険してみたいかですか。

絵本・ スキーをはいたねこのヘンリー

メリー・カルホーン文、エリック・イングラハム絵、猪熊葉子訳、リフレオ出版

ヘンリーは、後ろ足で立って歩くのが得意なシャム猫。ある日、飼い主一家と一緒に出掛けた山小屋で、置いてきぼりにされてしまい……。

細やかなタッチで、写実的な絵が美しい絵本。猫が2本足で歩くのも不思議ですが、スキーを履いて滑る姿もかわいらしいですよ。

絵本・ ウッレのスキーのたび

エルサ・ベスコフ作、石井登志子訳、フェリシモ出版

6歳の誕生日に、初めて本物のスキーをもらったウッレは、雪の積もったある日、新しいスキーを履いて、森へ出かけます。ウッレは、森で出会った霜爺さんに、冬王さまのお城へ連れて行ってもらいますが……。

繊細な絵が美しい古典絵本。北欧の豊かな冬の様子を描き出しています。

絵本・ ゆきのうえ ゆきのした

ケイト・メスナー文、クリストファー・サイラス・ニール絵、小梨直訳、福音館書店

わたしが、お父さんと一緒に、森の中へスキーで滑っていくと、雪の上にシippoがチラリ。1匹のアカリスが雪の隙間に消えてしまいます。そして、お父さんは、雪の下には秘密の世界があることを教えてくれます。雪の上と雪の下。まったく違う別世界を、リズムカルな文章で、交互に描いた絵本です。



絵本・ おおきなかぶ ーロシア民話ー

A・トルストイ再話、内田莉紗子訳、佐藤忠良画、福音館書店(こどものとも絵本)

おじさんがカブを植えると、甘くて、とてつもなく大きなカブに育ちました。ところが、おじいさん一人では抜けません。そこで、おばあさんをお願いします……。

力強い絵で描かれたロシア民話の絵本。単純で、リズムカルな繰り返しが好き、幼い子の心を引きつけます。

☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

3月15日(土)、4月19日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや





みみずく通信

発行：すばなしの会みみずく

HP：www.h4.dion.ne.jp/~mimizuku/

号外
2013.9.21

☆ おめでとう！

今年、岩波書店創業100年、福音館書店60年の年にあたります。岩波書店から1950年に《岩波少年文庫》、1953年には《岩波の子どもの本》が、そして、1956年には福音館書店から月刊絵本《こどものとも》が創刊され、これによって、日本の児童書の世界が一変しました。そこで、今回は、号外として、2社の絵本をたくさん紹介してみたいと思います。この機会に、長く読み継がれてきた、良い絵本を読み返してみたいと思いませんか。



岩波書店100年



絵本・ひとまねこざるとときいろいぼうし H.A.レイ文・絵、光吉夏弥訳。

ジョージは、知りたがり屋で、人まねが大好きな子ザル。ある日、黄色い帽子のおじさんに連れられて、アフリカから大きな街へやってきました。

幼い子どものように好奇心旺盛で、イタズラ好きな子ザルが主人公の人気シリーズ。小型の《岩波の子どもの本》のシリーズの中にもありますが、できれば大型本で楽しんでみてください。シリーズどうぞ。

絵本・ちいさいおうち バージニア・リー・バートン文・絵、石井桃子訳

ずっと田舎の静かな丘の上に、ちいさいおうちが建っていました。ちいさいおうちは、四季の移ろいを眺めながら、幸せに暮らしていましたが、やがて周りは大都会へと変わっていき……。

静かな感動を呼ぶ、詩情豊かな作品。同じ作者の『せいめいのれきし』も、ご一緒にどうぞ。

絵本・こねこのぴっち ハンス・フィッシャー文・絵、石井桃子訳

リゼットおばあさんの家に住む子ネコのぴっちは、他の動物になりたくて真似をしてみます。オンドリの立派な歩き方を真似たり、頭に枝を2本つけてヤギになったり……。

自在な線で、動物たちの動きや表情を豊かに描いた絵本。リゼットおばあさんのお誕生日をお祝いする『たんじょうび』（福音館書店刊）も、併せてどうぞ。

🍏 まだまだあるよ、こんな絵本

クマのプーさんえほん A.A.ミルン文、E.H.シャパード絵、石井桃子訳

小さな男の子クリストファー・ロビンとぬいぐるみのクマ・プーさんを中心に、ぬいぐるみたちが大活躍する大人気のお話の絵本版です。

大雪 他 ゼリーナ・ヘンツ文、アロイス・カリジェ絵、生野幸吉訳

アルプスに住む、ウルスリとフルリーナの兄妹を主人公に語られる絵本のシリーズです。

絵本・まりーちゃんとひつじ フランソワーズ文・絵、与田準一訳(岩波の子どもの本)

まりーちゃんは、大好きなヒツジのばたぼんにいつか子どもが産まれたら……と、考えます。そして、その想像はどんどん大きくなっていき……。

素朴で暖かみのある絵と、詩のように流れる文章の絵本。続編に『まりーちゃんのくりすます』『まりーちゃんとおおめ』（こちらは福音館書店刊）があります。併せて、どうぞ。



絵本・おつきさんどうしたの E.M.フレストン文、B.クニー絵、岸田衞子訳 (岩波の子どもの本)

ある満月の夜のこと、母さんガチョウの留守中に、家を抜け出したちびさんは、池で泳ぎながら月を見上げて大騒ぎ。お百姓さんを起こして叱られるうちに、キツネに捕まり、さあ大変。

リズムカルな文章と、淡い水彩で描かれた夜の世界が美しい絵本です。



《岩波の子どもの本》シリーズ

このシリーズも、今年で創刊60年。当時、子供向け絵本のシリーズなど画期的なことだったでしょう。国内外のお話を、有名な作家と画家のコラボレーションで楽しめます。タイトルだけではなく、ご紹介します。

「あなほほるもの おっこちるところ」(クラウス文、センダック絵、渡辺茂男訳)、「おかあさんだいすき」(フラック文・絵、光吉夏弥訳)、「ふしぎなたいこ」(石井桃子文、清水崑絵)、他
☆他にも、いろいろあります。読んでみてください。



福音館書店60年

絵本・ちいさなうさこちゃん

ティック・フルーノ文・絵、石井桃子訳

ある晩、ふわおくさんのもとへ天使がやってきて、「じきに赤ちゃんができますよ。」と教えてくれます。そして、生まれたのがうさこちゃんです。

人気シリーズの第1作目。簡潔でリズムカルな文章と、原色で単純な絵は、子どもたちの心を引きつけます。シリーズでどうぞ。



絵本・ぐりとぐら

中川李枝子作、大村百合子絵

お料理すること、食べることが大好きな野ネズミのぐりとぐらが、森へ出かけると、大きな卵を見つけます。そこで、2匹は、カステラを焼くことにしますが……。

リズムカルな文章と、のびのびした絵の人気シリーズの1作目も、発表されてから今年で50年。こんなにかわいくても、意外とお年寄りなんですよ。

絵本・ピーターラビットの絵本(全24巻)

ビアトリクス・ポター作・絵、石井桃子他訳

120年前、ポターは、ある小さな男の子を勇気づけようと、ウサギのお話の絵手紙を送りました。このウサギこそ、後に、“世界で一番有名なウサギ”と言われることになるピーターラビットです。イギリスの田園を舞台に、個性豊かな動物たちが繰り広げるお話は楽しく、細密で、柔らかい色彩の美しい絵本です。



まだまだあるよ、こんな絵本

この他にも、いろいろなシリーズの絵本などが出ています。一部だけご紹介します。

*シリーズで出ている本

ぼぼぼあちゃんの絵本(さとうわきこ作・絵)

スモールさんの絵本(レンスキー文・絵、渡辺茂男訳)

タンタンの冒険(エルジェ作、川口恵子訳) **他**

絵本・かもさんおとおり

ロバート・マックロスキー文・絵、渡辺茂男訳

巣作りのためにボストンまでやって来た、カモのマラードさん夫婦は、川の中洲に巣を作り、卵をかえします。ヒナが育ち、近くの公園へ住み替えのため行進を始めますが……。

大画面いっぱい描かれた絵は、セピア一色ですが、柔らかいタッチで、のびやかに描かれていて、美しい絵本です。

絵本・旅の絵本 I ~ VIII

安野光雅作

トンガリ帽子で馬に乗った旅人が、自然や街並みの中を旅しています。その背景は、丹念に描かれていて美しく、名画の一部や、お話の登場人物、有名人などが隠れています。中部ヨーロッパから、イタリア、イギリス、……と来て、最新刊は日本です。旅人と一緒に、いろいろな国を旅してみたいかがですか。



科学絵本・ふゆめがっしょうだん

富成忠夫・茂木透写真、長新太文

ウサギやコアラの顔に、帽子をかぶった子どもの顔……。どれも、みんな冬芽の写真です。そこに、軽快で、ユニークな言葉を乗せた絵本。楽しい冬芽の合唱をお楽しみください。

科学絵本・しっぽのはたらき

川田健文、藪内正幸絵、今泉古典監修

いろいろなシッポに、いろいろな働き。繊細で、緻密な絵と、簡潔な文章で、新しい科学絵本の世界を開いた、草分け的絵本です。



2社からは、ここに掲載した絵本ばかりではなく、他にも、楽しい絵本がたくさん出版されています。科学絵本もたくさん出ていますので、あなたのお気に入りを探してみたいかがですか。